

下落基調続く米国株の反転時期は近い？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① NYダウは90年ぶりの連続下落

先週の米国株市場は、米小売大手の失望決算が相次ぎ、投資家の間で米企業業績の下振れリスクが意識されたことから、大幅な下落となりました。S&P500種株価指数は7週続落と2001年以来、ダウ工業株30種平均に至っては8週続落と1932年以來の連続下落記録となるなど、歴史的な長期下落局面が続いています（右上図）。

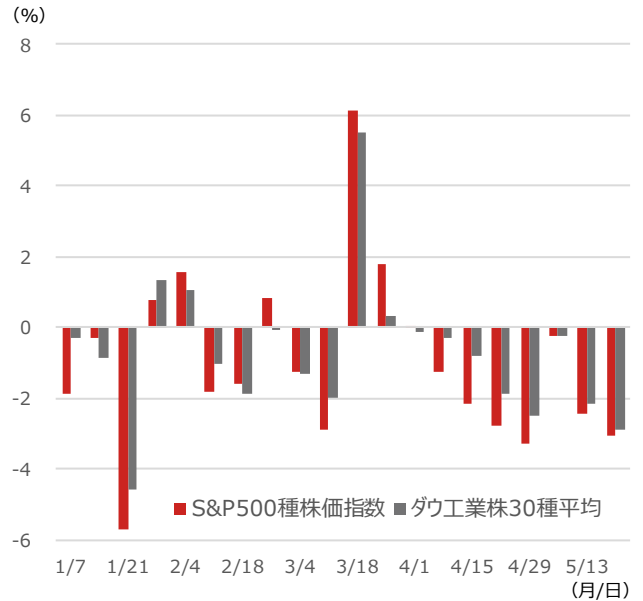
ただ、現在のマーケットは過度に市場心理が悪化しており、企業業績などのファンダメンタルズからみて売られ過ぎの側面もあるとみられます。米企業業績への懸念を強めることになった米小売大手の企業決算は、業界自体が価格競争が厳しいこともあり、同決算をもってして、IT（情報技術）など競争力を有する米企業の業績悪化につながるとは限りません。5月25日には米半導体大手エヌビディアの決算が予定されており、内容次第で米企業業績に対する過度な悲観が後退する可能性もあります。

ポイント② 米個人投資家心理は過度に悪化

米個人投資家協会が毎週実施している調査によると、株式相場に「強気」と答えた割合から「弱気」と答えた割合を差し引いた値が4月28日に-43%ポイントとリーマン・ショック後の09年以來の弱気に傾き、足元でも弱気心理は続いています。ただ、同値が大きく弱気に傾いた時が相場の反転のシグナルとなってきたこともあり、きっかけ次第で過度な悲観の修正が起きやすいことを示唆しています（右下図）。

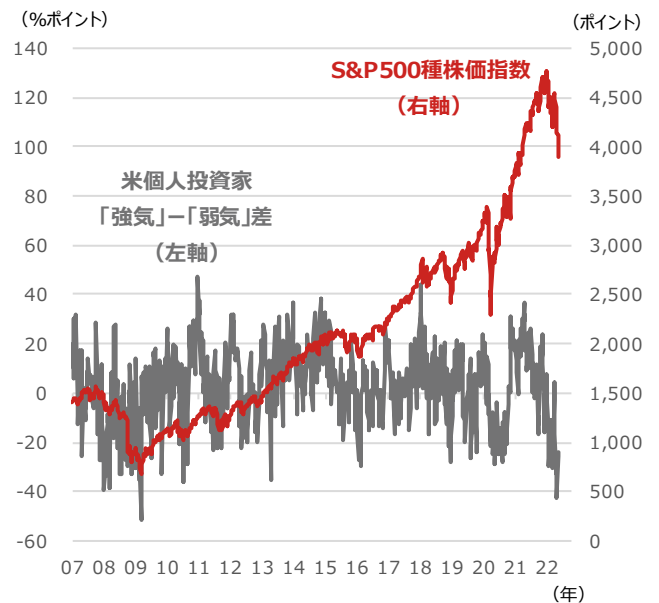
ここにきて米CPI（消費者物価指数）の伸びが鈍化し始めたほか、中国上海市が都市封鎖解除への道筋を示すなど、明るい兆しも見え始めました。下落が続く米国株の自律反発局面は近づきつつあるかもしれません。

S&P500とダウ工業株30種平均の週間騰落率



期間：2022年1月7日週～2022年5月20日週、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500と米個人投資家「強気」-「弱気」差



期間：（S&P500種株価指数）2007年1月5日～2022年5月20日、週次
（米個人投資家「強気」-「弱気」差）2007年1月4日～2022年5月19日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。